



南行通信

～やさしさいっぱい 夢いっぱい 元気いっぱい～

令和7年12月3日
校長 中村 由美子



秋が近づく中、ドレミファ音楽会では、保護者の皆様からご理解と温かいご声援を賜り、誠にありがとうございました。学校という場所は、多様な個性を持つ子どもたちがいます。音楽会の練習や演奏の場では、その多様な個性が色鮮やかにあらわれました。

「豊かな表現力で歌ったり、演奏したりする子」「響き渡る素敵な声で歌える子」「楽器の演奏が苦手なと思う子」「みんなと一緒にいることが少し苦手な子」「大きな音に敏感な子」・・・

子どもたちはこの違いを乗り越え、一つのハーモニーを創り上げました。「みんなと同じようにできること」だけを目指にするのではなく、「その子なり」の形で音楽に目を向け努力した成果が音楽会当日の姿となりました。

○違うパートにつられないように歌いました。

○恥ずかしかったけれど、きれいな音を出そうとがんばりました。

○みんなと手拍子を合わせるのはむずかしかったけれど、自分のパートを間違えないようにしました。

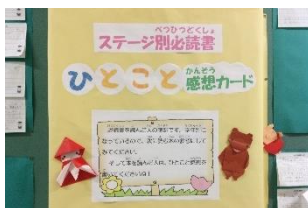
○吹けない場所もあったけれど、できるところはがんばりました。

ひとりひとり違う「がんばり」が、本番のすてきな演奏をつくりだしました。自分自身の性格や苦手なことと向き合い、自分なりのやり方で表現できた経験は、音楽の技術とともに自分や他者を理解する力となるはずです。「人生100年時代」と言われています。現在19歳の方が107歳まで生きる確率は50%だそうです。107歳までの長い人生には、何度も困難が訪れることでしょう。他者とかわりながら、困難をより良い方法で乗り越える力をつけることが教育活動の目的の一つです。ドレミファ音楽会も、その力をつける大きな役割を果たしています。



読書の楽しさを！

11月11日から28日は読書週間でした。子ども達の本を手取る機会を増やし、読書の楽しさを感じられるよう、様々な企画を実施しました。読んだ本を紹介し合ったミニ読書感想文スタンプラリーや、担任や専科教職員が学級を入れ替わったシャッフル読み聞かせ、兄弟学年でおすすめの本を伝える読書郵便などを行いました。これらの活動で、本を読む時間を確保し、本に親しむ機会を増やそうと取り組みました。場面が次々と変わっていくショート動画やゲームなどに慣れている子どもは、読書を苦手とする傾向があります。しかし、読書は、語彙を増やし、豊かな想像力を養えるものです。今後も、子ども達の発達段階に応じた指導をし、豊かな読書体験ができるよう、引き続きサポートしていきます。ご家庭でも、読書について話題にしてみてください。



令和8年度

特別支援学級新規設置について

令和8年4月より、特別支援学級（自閉症・情緒障がい）が新規設置となります。

この学級では、1学級8名以内の小集団のなかで、学年相応の教科学習を行いながら、個々の特性や状態に応じた集団適応や対人関係の安定を図り、社会参加に向けた資質を養うため自立活動の指導を実施します。また、一人一人の状況に応じて、通常の学級の子どもたちと、行事、教科学習、給食の時間、休み時間などを通して、交流も行われます。

この学級への転籍を希望、または検討される方は、教育センターでの相談が必要です。なので、なるべく早く教頭までご連絡ご相談をお願いいたします。